

ウルグアイ 東方共和国

ESGレポート



Ministerio
de Economía
y Finanzas

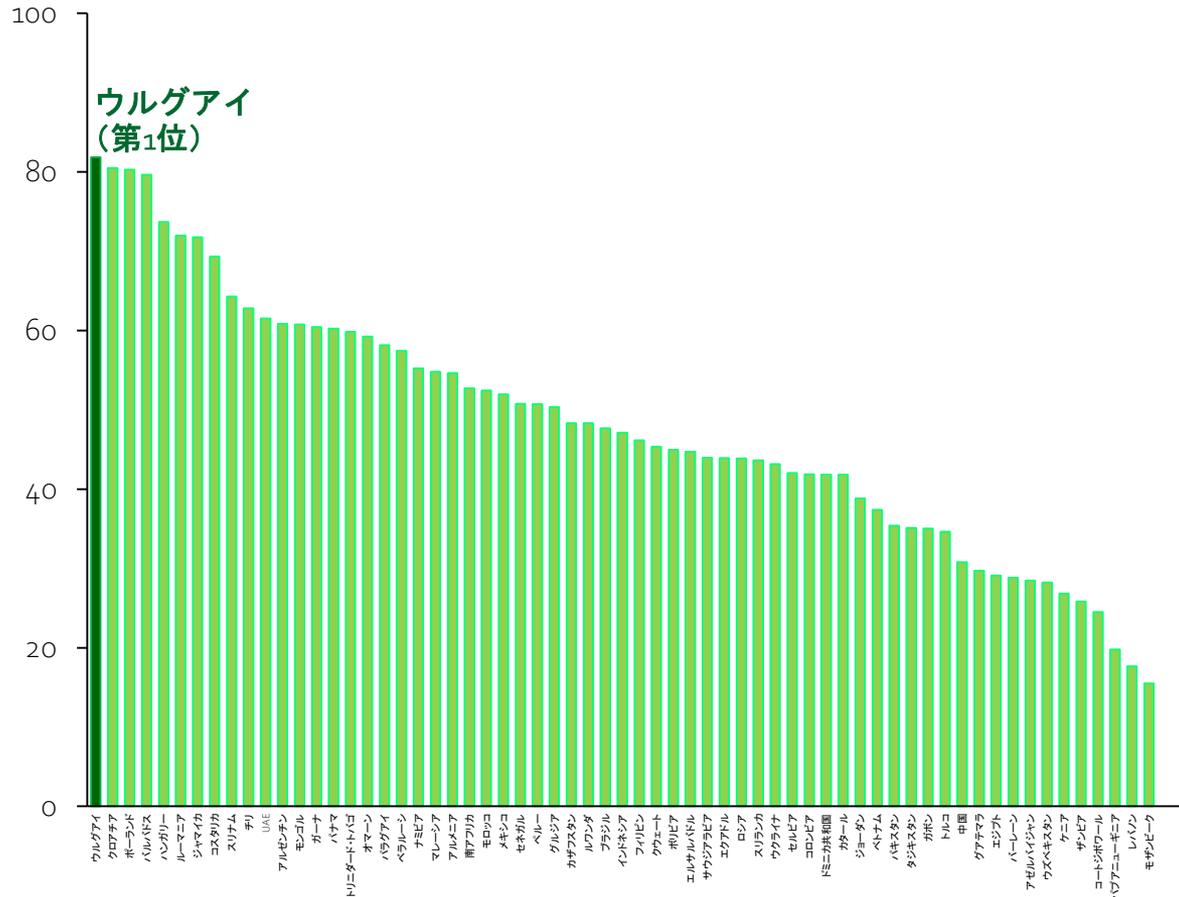
2021年11月



ウルグアイはESGファンダメンタルズで新興国トップ

新興国のESGスコア

(JP Morganインデックス, 100=最高 パフォーマンス;2021年10月末現在)



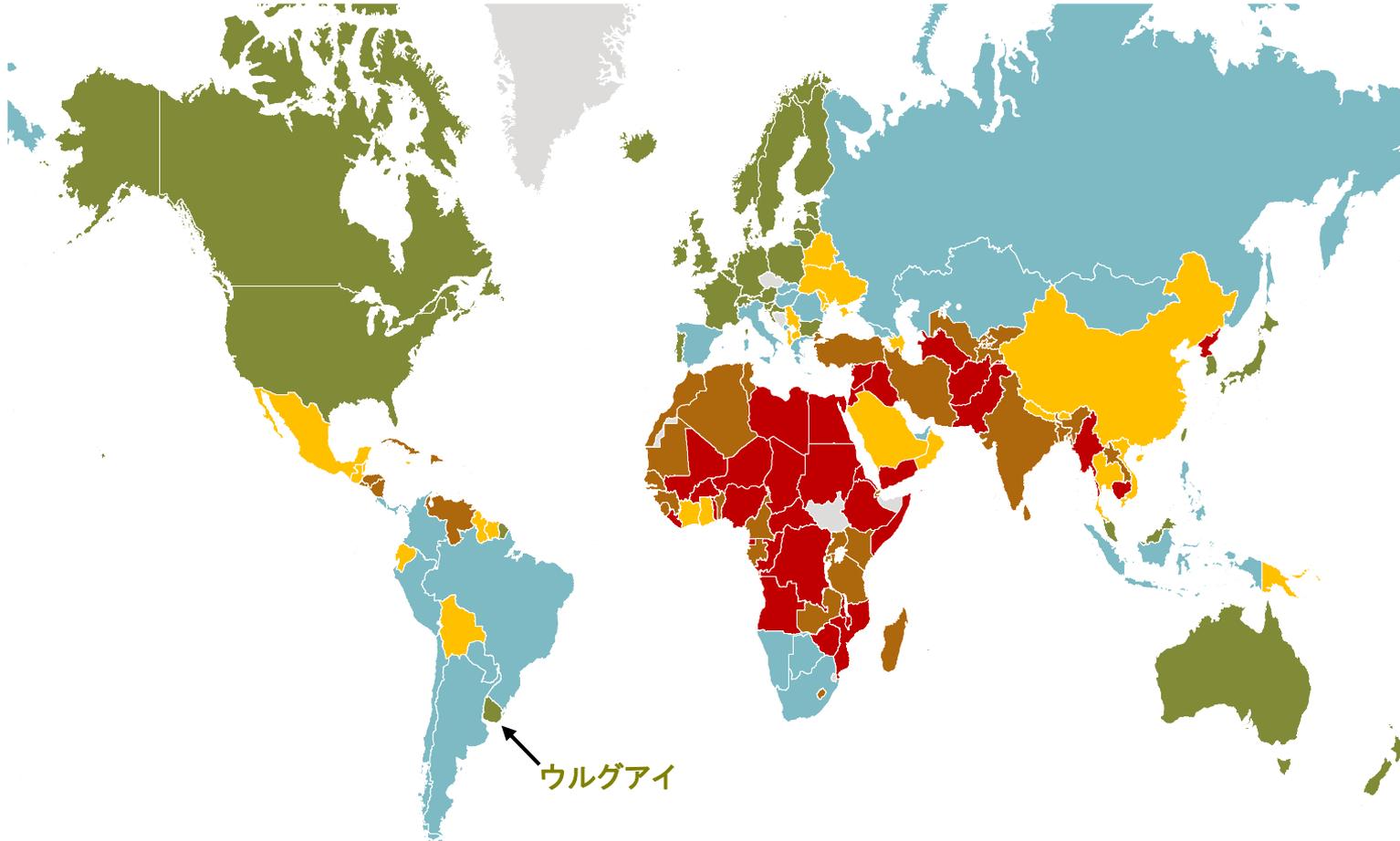
JP Morgan ESGスコア (JESG)

- JESG発行体スコアは、第三者評価機関であるSustainalyticsとRepRiskの元ESGスコアを標準化した上で算出された0~100パーセンタイルのランク
- 国連グローバル・コンパクトの原則に準拠した審査方法を採用
- ベンチマークであるEMBIを構成する新興国72カ国のうち63カ国で構成

出典: J.P. Morgan Chase & Co., RepRisk, Sustainalytics, Climate Bonds Initiativeのデータを使用。

免責事項: 情報は信頼できると考えられる情報源から入手していますが、JPモルガンはその完全性または正確性を保証するものではありません。インデックスは許可を得て使用されます。本指数は、JPモルガンの書面による事前の承認なしにコピー、使用、または配布することはできません。Copyright 2021, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

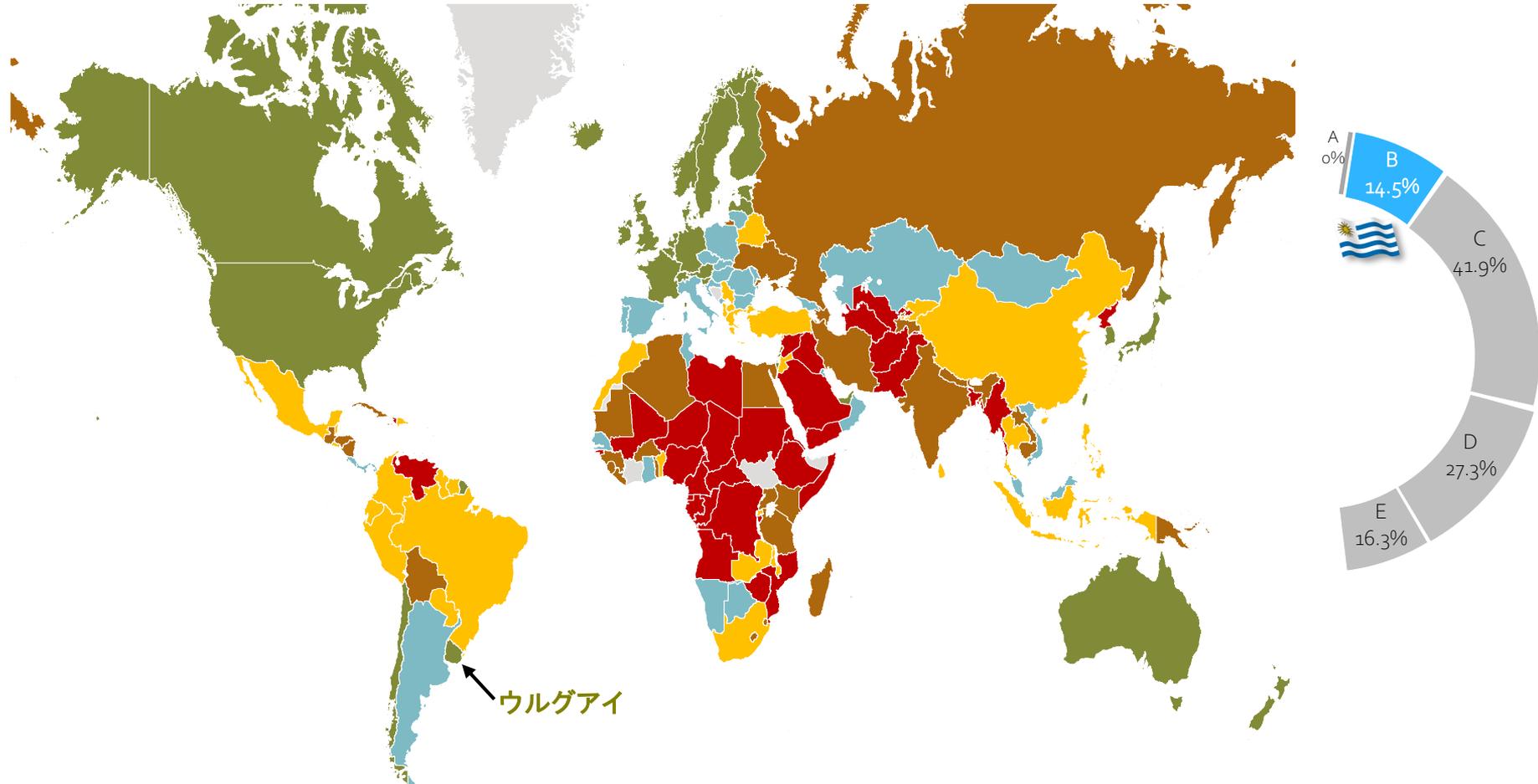
ESG評価機関によれば、世界のESG 比較において ウルグアイは非常に高い評価



*パーセンタイル(百分位): 計測値の分布(ばらつき)を小さい数字から大きい数字に並べ替え、パーセント表示することによって、小さい数字から大きな数字に並べ変えた計測値においてどこに位置するかを測定する単位。

出典: J.P. Morgan Chase & Co. (MSCI準拠)2021年時点

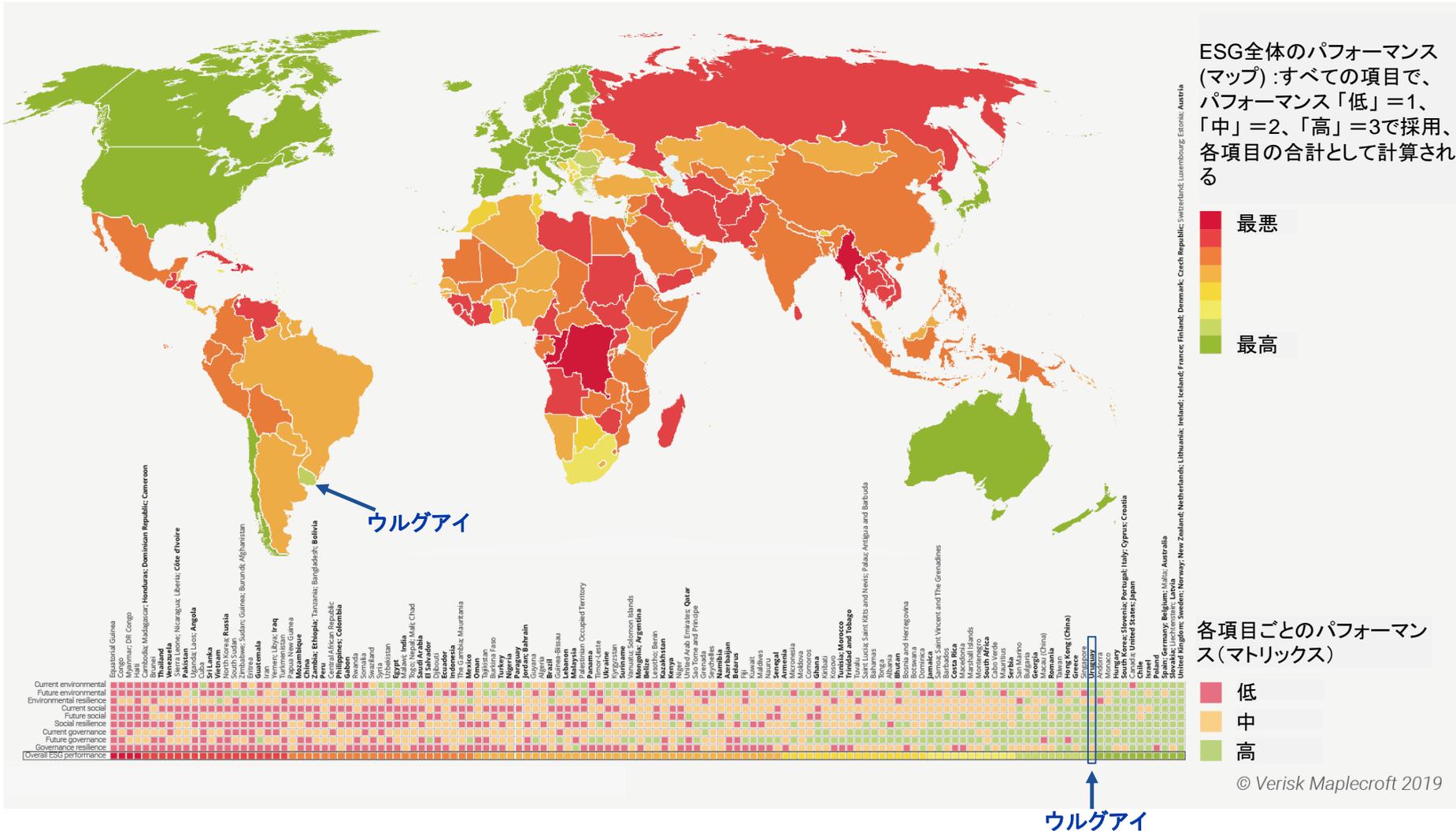
ESG評価機関によれば、世界のESG 比較において ウルグアイは非常に高い評価



*パーセンタイル(百分位):計測値の分布(ばらつき)を小さい数字から大きい数字に並べ変え、パーセント表示することによって、小さい数字から大きな数字に並べ変えた計測値においてどこに位置するのかを測定する単位。

出典: J.P. Morgan Chase & Co. (Sustainalytics準拠)2021年第3四半期時点

ESG評価機関によれば、世界のESG 比較において ウルグアイは非常に高い評価



出典: BlueBay Asset Management 及び Verisk Maplecroft, "ESG risk factors are material for sovereign debt investing" (2019年5月)

環境に配慮した政策に裏打ちされた 国際的な持続可能性基準の遵守...



国際条約

- パリ協定 (2015年)
- 持続可能な開発目標 (2016年)
- 京都議定書 (1997年) およびドーハ改正案 (2012年)

公的機関のフレームワーク

- 国家環境計画 (2019年)
- 国家気候変動政策 (2017年)
- 森林減少・劣化に伴う排出量削減プログラム (2016年)
- 国家エネルギー効率改善計画 (2015年)
- 気候変動および変動に対する国家的対応システム (2009年)

環境関連の財務政策

- 廃棄物処理管理に関する法律 (2019年) に含まれる使い捨て包装及び物品に対する課税
- 電気自動車および公共電気バスなどの普及促進のための免税制度(2018年)
- 非生分解性ビニール袋の使用を禁止し、生分解性ビニール袋1枚につき0.11米ドルの関税を課す (2018年)
- 気候変動の影響の適応と緩和を目的とした公共支出の特定
- パリ協定の規定に基づき、国が定める初拠出金の公表(2017年)



最近のマイルストーン

- 脱炭素化: 温室効果ガスのGDP比は1990年以来27%減少
- 自然界で生産された肉1 kg当たりのメタン排出量は28%減少
- 森林面積の増加と原生林の保護により、CO₂回収量の増加
- 2,600棟以上の浸水被害の可能性のある家のリロケーション

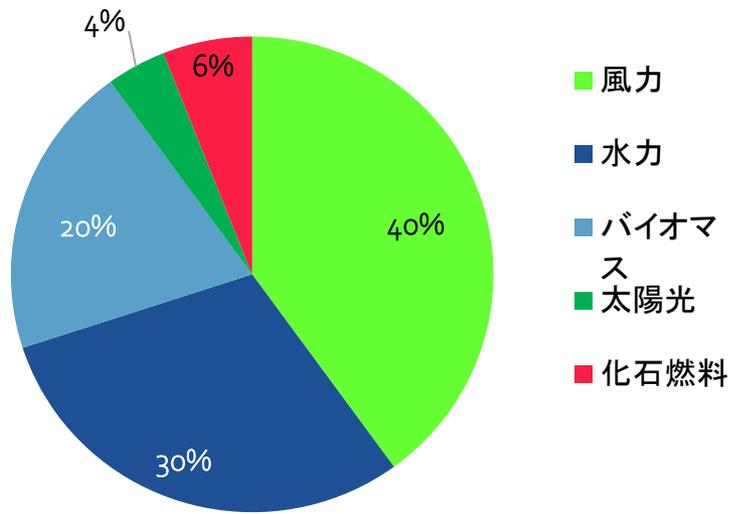
1/ 農業、林業、その他土地利用
2/ 工業/加工及び製品仕様



ウルグアイの電源構成は主に再生可能エネルギーがベースであり、その一部は過去10年間の風量エネルギーの着実な成長を一因として...

電源別発電電力量⁽¹⁾

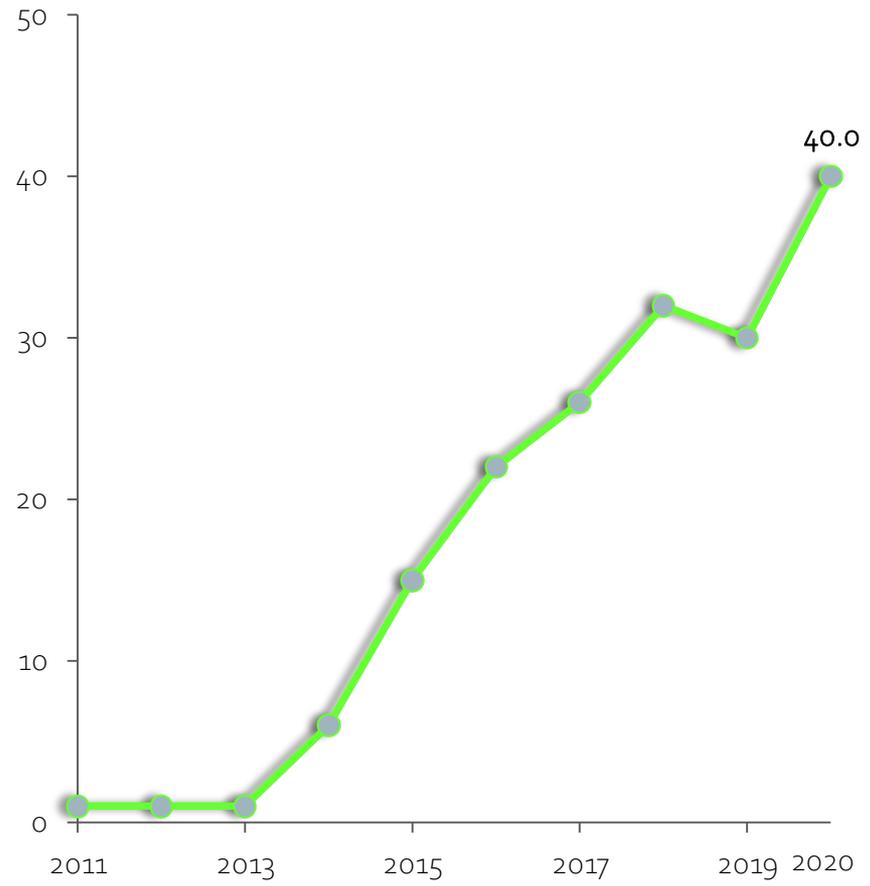
(全体に対する%、2020年)



ウルグアイの2020年における風力発電および太陽光発電のシェアは世界第2位である⁽²⁾

風力発電による発電⁽¹⁾

(全体に対する%)



(1) 出典: 2020年国家エネルギーバランス、産業エネルギー鉱山省。

(2) 出典: EMBER 2021年世界電力レビュー

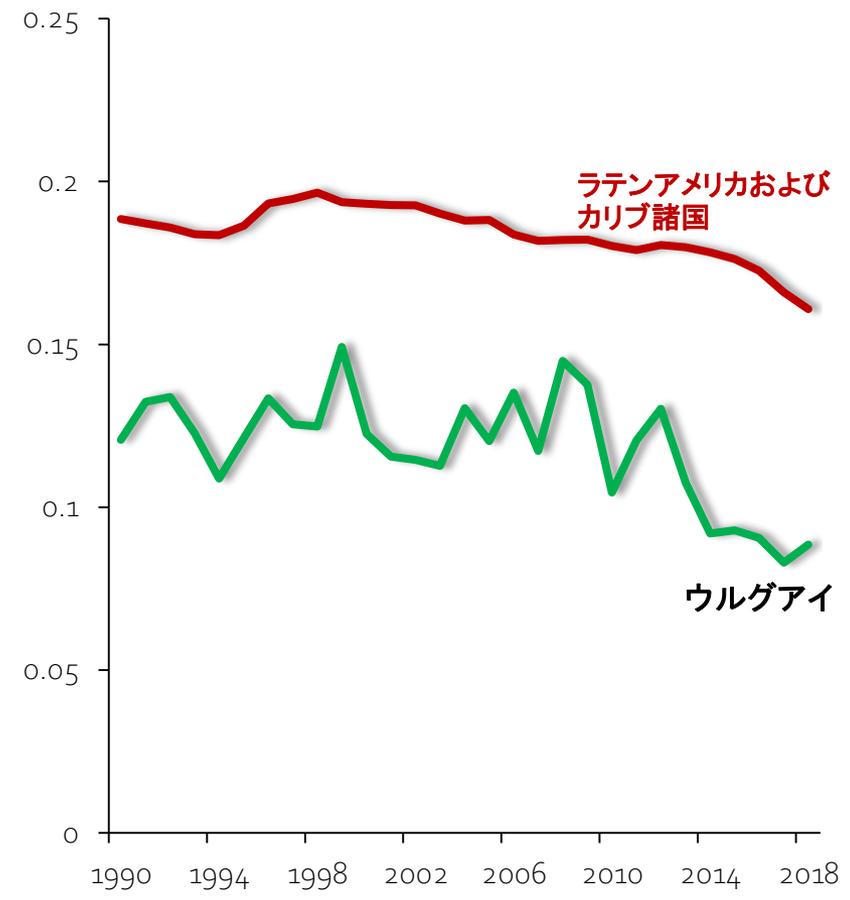


ランキング1位:

- 世界経済フォーラムのエネルギー転換指数(新興国・途上国の中)
- 世界各国のMSCI環境ピラー指数
- MITテクノロジーレビューのグリーン未来指数

CO2排出係数 (1)

(2011年基準、GDPのPPPドルあたりの排出量、kg)



(1) 出典 世界銀行

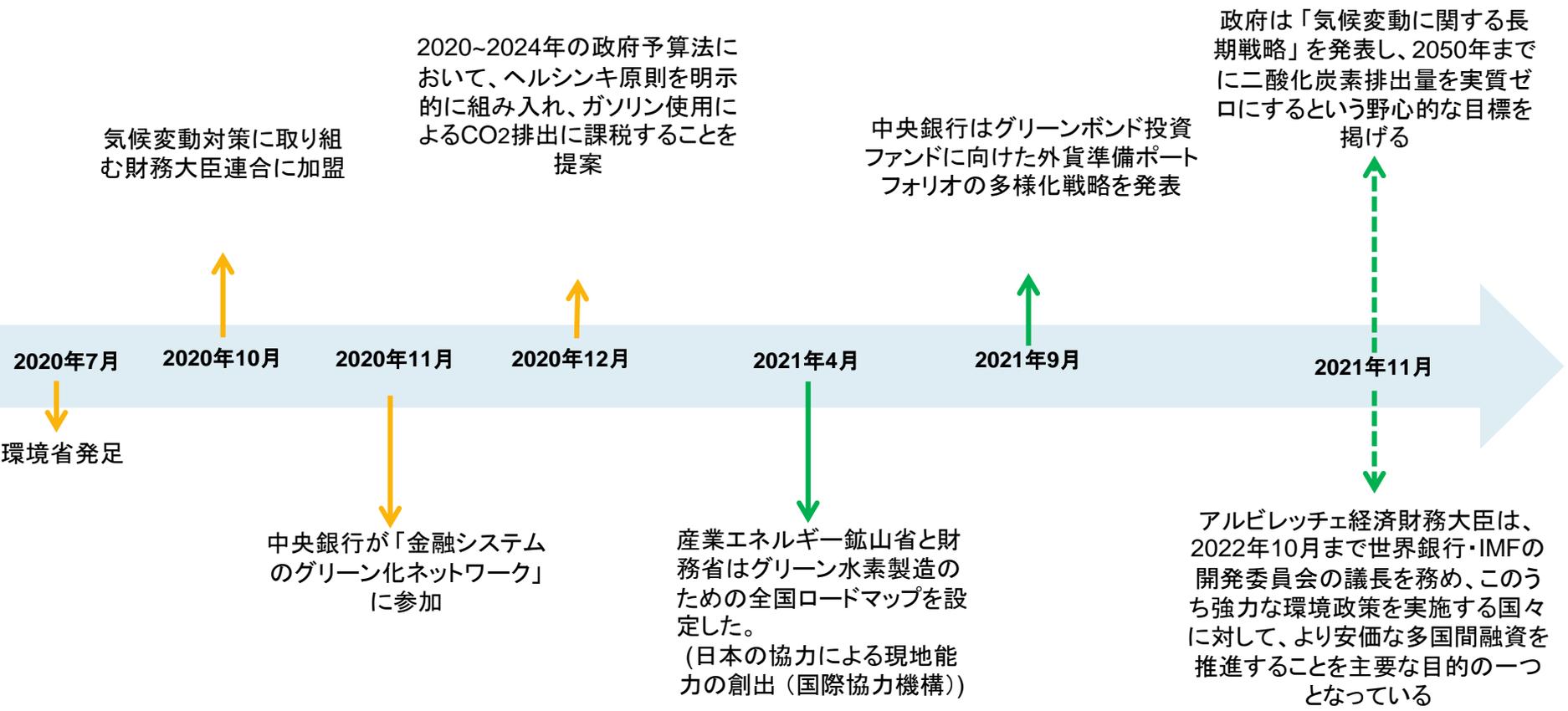


第533条 「気候変動対策に取り組む財務大臣連合」によるヘルシンキ原則に従い、新型コロナウイルス感染症による危機からの経済回復を持続可能、且つ包括的なものとすることを目的として、政府は温室効果ガス排出削減と気候変動適応に対する国家目標達成のための手段を創出し、歳入歳出政策に必要な基準を採用するよう努めていく。これらの目的は、経済政策の分析と設計および財政計画にも含まれることが求められる。



政府は気候変動政策に取り組んでいる

マクロ経済、財政、資金調達の政策を通じて、温室効果ガス排出量の削減
および気候変動に強い経済成長を目標とする。



2021年、政府はグリーン水素エネルギー生産 開発のための新ロードマップを発表



中期的にはグリーン水素の輸出国になるためのウルグアイの主要な特性

#1. 発電の潜在能力

風力や太陽光発電などのエネルギー資源による発電において大きな潜在能力がある

#3. 物流における恵まれたロケーション

大西洋に面し、全ての国へのアクセスが可能



#2. 相互補完能力

再生可能エネルギーの資源間での相互補完性が高いため、電力容量の多くを再生可能なエネルギーが占めている(約60%)

#4. 強力な制度と予測可能な政策フレームワーク

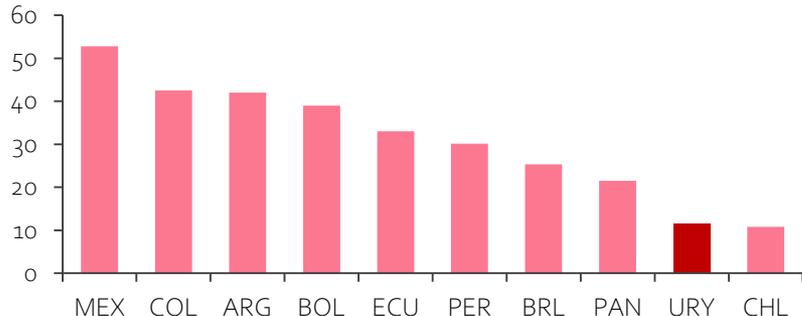
低いクレジット・スプレッドに反映される

ウルグアイは貧困率とジェンダー不平等が低く、ラテンアメリカでは中流階級の割合が最も高い



ラテンアメリカ諸国と比較した貧困率 (1)

(全人口における割合%、2020年)*



(*)ブラジルは2018年、パナマは2017年。アルゼンチンの貧困率は都市部のみ。

ラテンアメリカ諸国と比較したジェンダー不平等 (2)

(不平等指数、2019年)



ジェンダー不平等の縮小

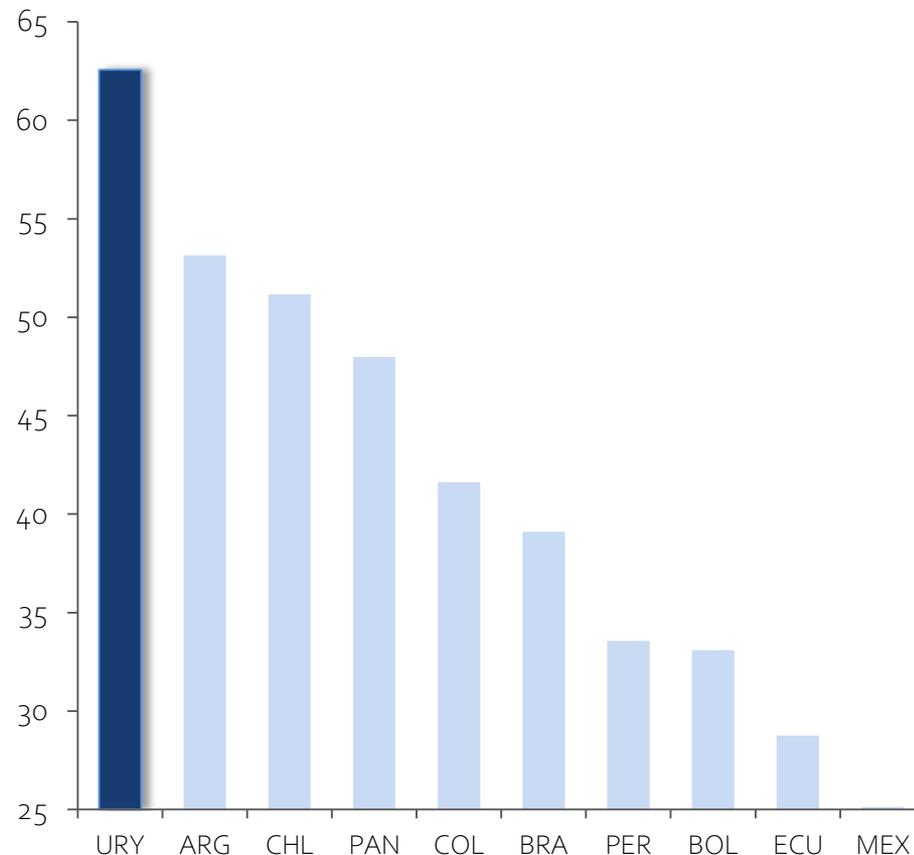
1) 出典: ラテンアメリカ・カリブ経済委員会

2) 出典: 国連開発計画 (UNDP) の人間開発2020報告書; ジェンダー不平等指数は、リプロダクティブ・ヘルス、エンパワーメント、労働市場の3つの側面における男女間の達成度の不平等を反映した総合的な指標

3) 出典: 米州開発銀行; 中流階級は、一人当たりの所得が1日当たり10米ドルから50米ドルの世帯の人口割合と定義される。

ラテンアメリカ諸国と比較した中流階級の割合 (3)

(全人口における割合%、2018年)*



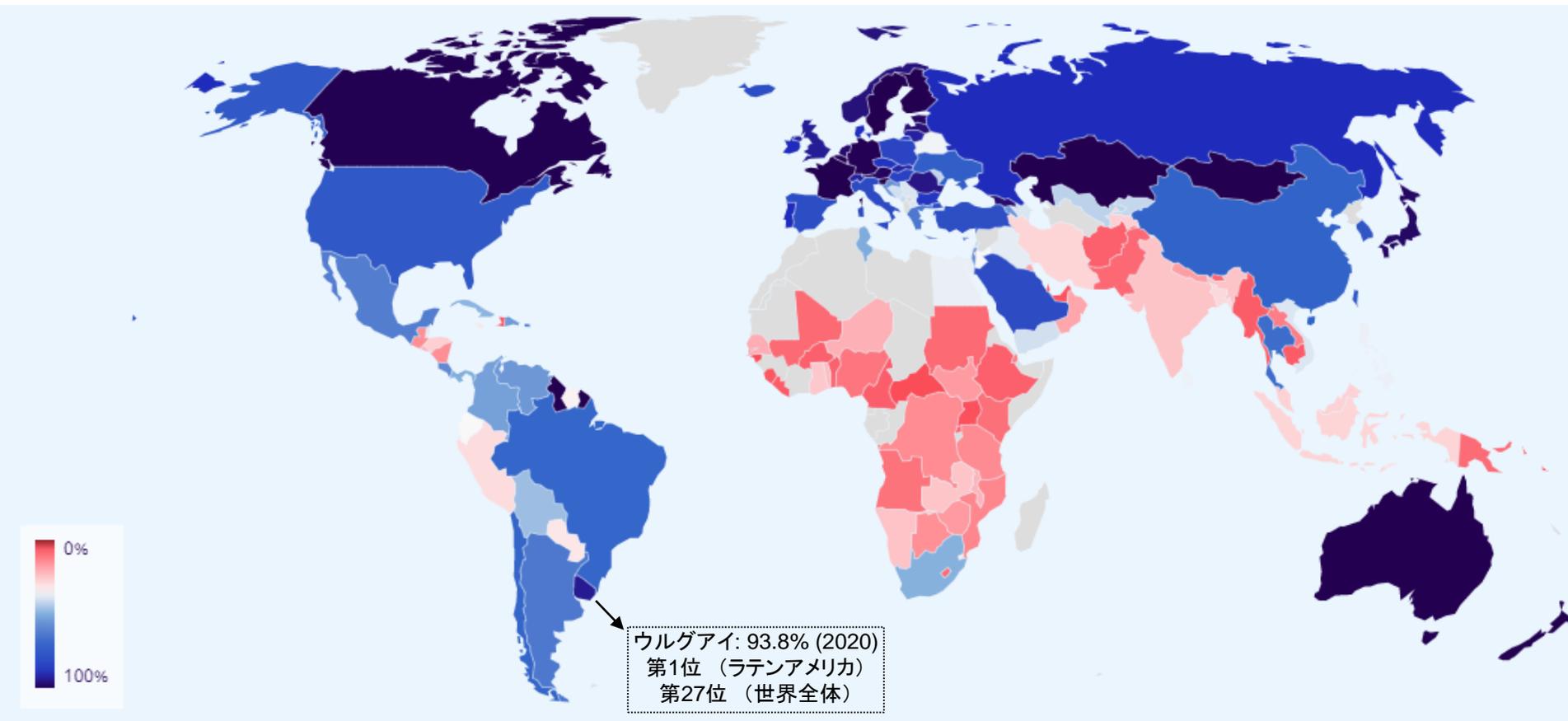
(*)アルゼンチン、ボリビア、ブラジル、エクアドル、パナマは2017年。メキシコは2016年。

ウルグアイは、ラテンアメリカ諸国の中で最も広範な社会的セーフティネットを提供しており、世界でも高水準である



社会保障の適用範囲

(少なくとも1つの社会的保護給付の対象となる人口の割合、最新年)



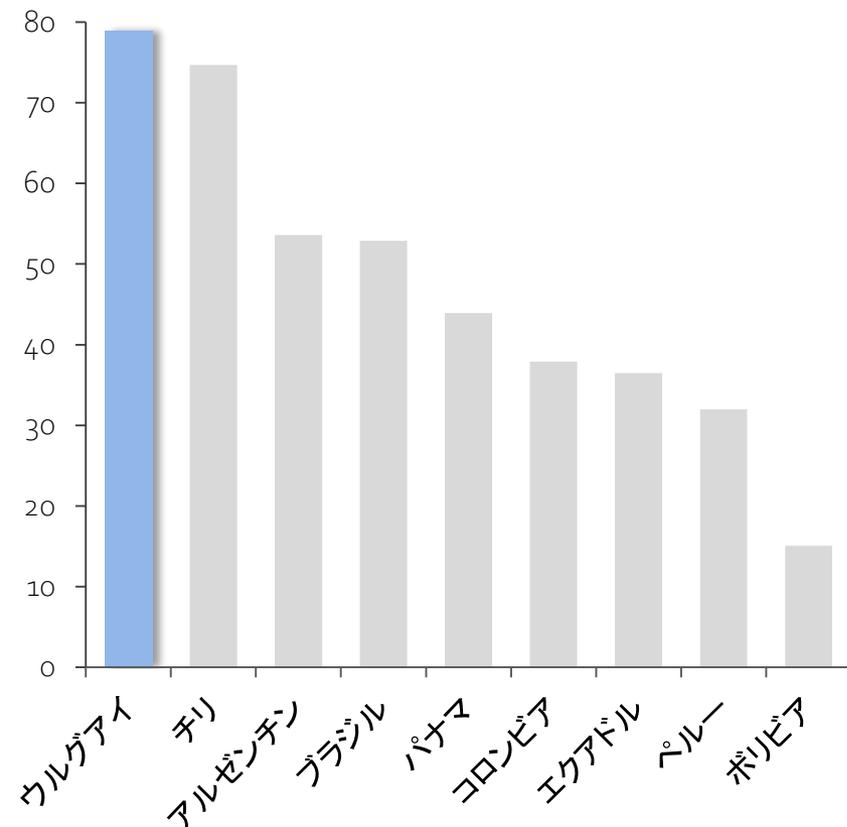
出典: 国際労働機構 (ILO), ILOSTAT; この地図に示されている境界線は、ILOによる承認を意味するものではない。最終更新日: 2021年6月7日。

少なくとも1つの社会的保護現金給付の対象となる人口の割合: 全人口に対する少なくとも1つの偶発事象/社会的保護機能 (拠出型又は非拠出型給付) の下で、又は少なくとも1つの社会保障制度に積極的に貢献している現金給付 (医療給付及び疾病給付を除く) を受けている人口の割合。

ウルグアイは、ラテンアメリカで 一人当たりGDPが最も高く、所得分布が最も公平である

ラテンアメリカ諸国と比較した正規雇用市場 (1)

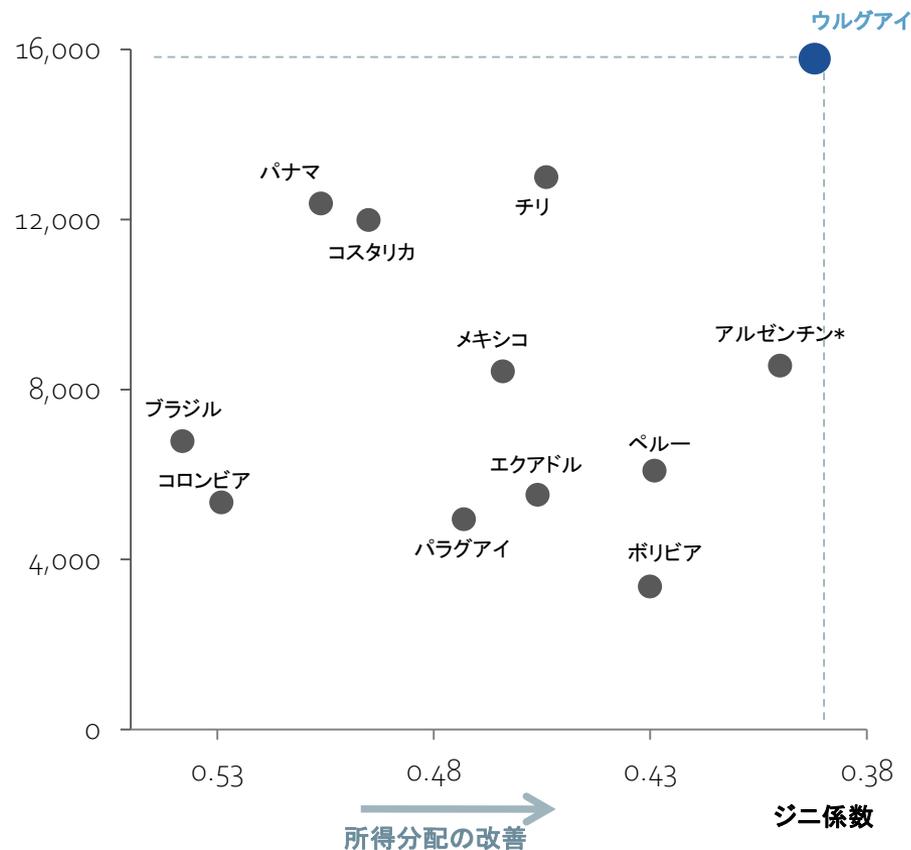
(正規雇用率、%、2020年)*



(*) ボリビア、コロンビア、エクアドルは2019年。

ラテンアメリカ諸国と比較した一人当たりGDPと所得分配 (2)

(利用可能な最新のジニ係数、一人当たり名目GDP、US \$、2020年)



(*) アルゼンチンのジニ係数は都市部のみ。

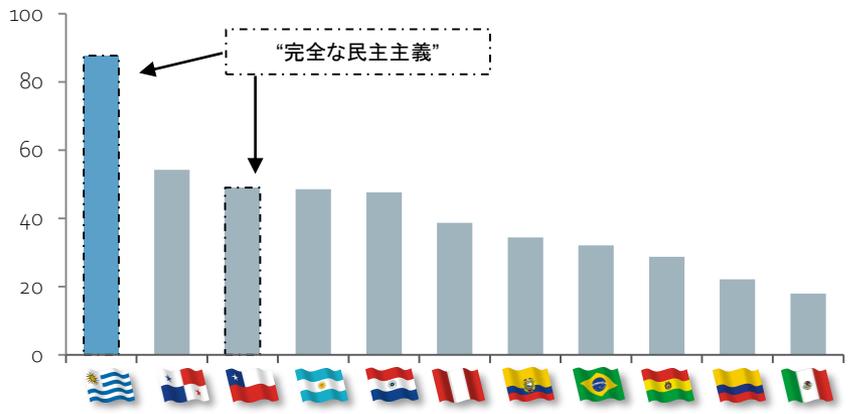
(1) 出典: ウルグアイ以外は国際労働機構(ILO)、ILOSTAT (ウルグアイを除く)。ILOによれば、雇用関係が、国内労働法、所得課税、社会的保護又は特定の雇用給付を受ける権利の対象とならない場合(解雇、退職金、年次有給休暇、病気休暇等の事前通知。)、従業員はインフォーマルな仕事に就いているとみなされる。ウルグアイの場合は、「非登録従業員」、すなわち現在の仕事から拋出型退職給付を受ける権利がないと宣言している人に言及し、2020年の12ヶ月平均データであるNational Statistics Instituteのデータを使用している。

(2) 出展: ECLAC 及び IMF - WEO 2021年4月

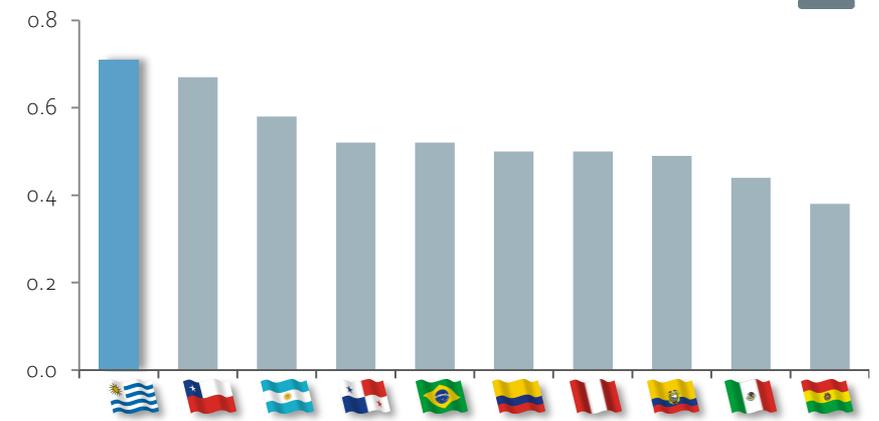
ウルグアイは、ラテンアメリカの制度的、政治的安定の砦であり、多くの先進国と横並びでランク付けされている



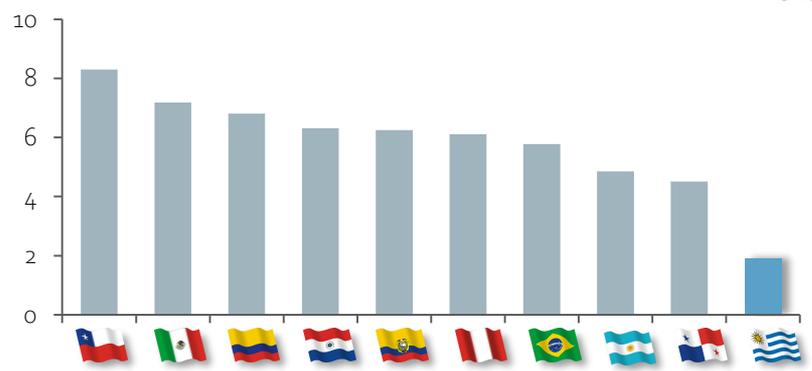
政治の安定と民主主義 (1) (パーセンタイル順位、2020年)



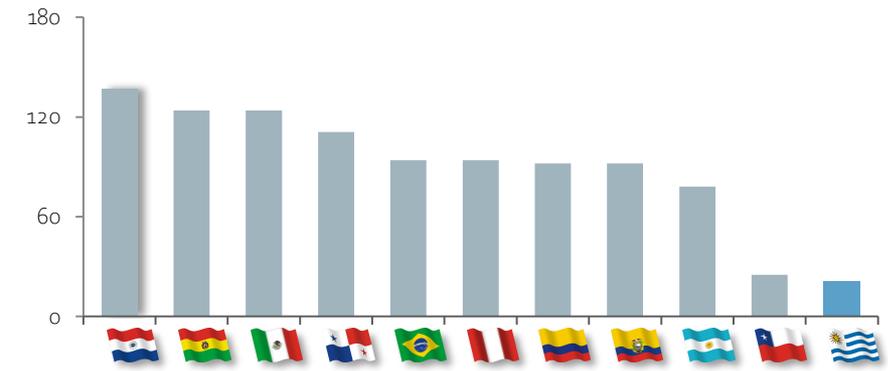
法の支配の遵守 (2) (1点満点、2020年)



市民による暴動 (3) (10か国中の指標、2020年第一四半期)



腐敗認識 (4) (ランキング、2020年)

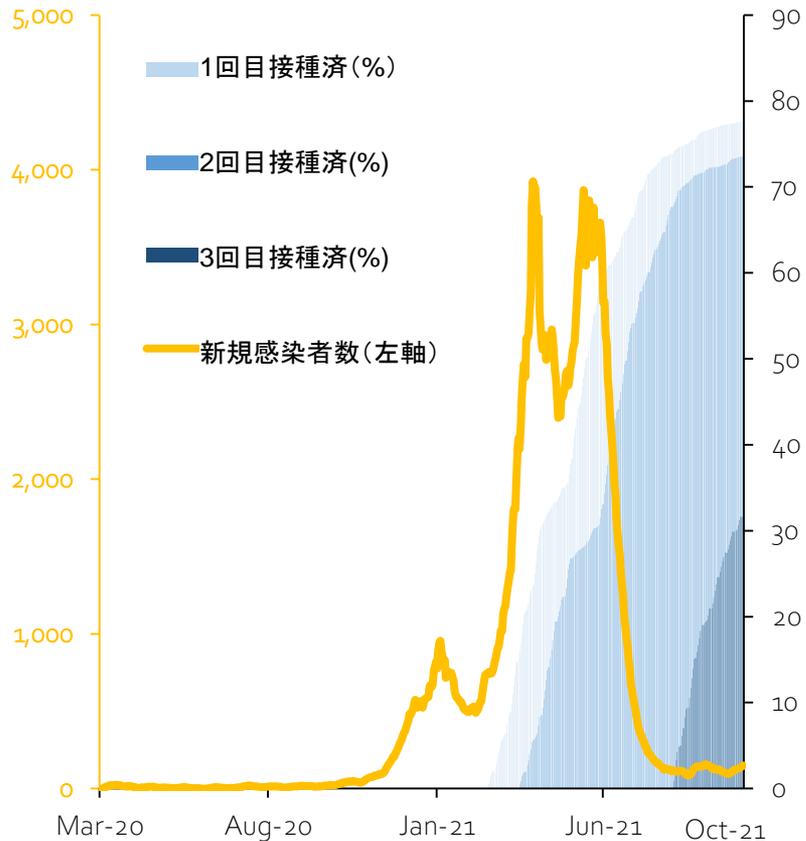


(1) 出典: Worldwide Governance Indicators, World Bank (2021) and The Economist Intelligence Unit (2021).
 (2) 出典: World Justice Project (2021).
 (3) 出典: Verisk Maplecroft ((2020).
 (4) 出典: Transparency International (2021).

「責任ある自由」という哲学的訴えの下、COVID-19対策としてのロックダウンやワクチン接種キャンペーンは一切強制ではない

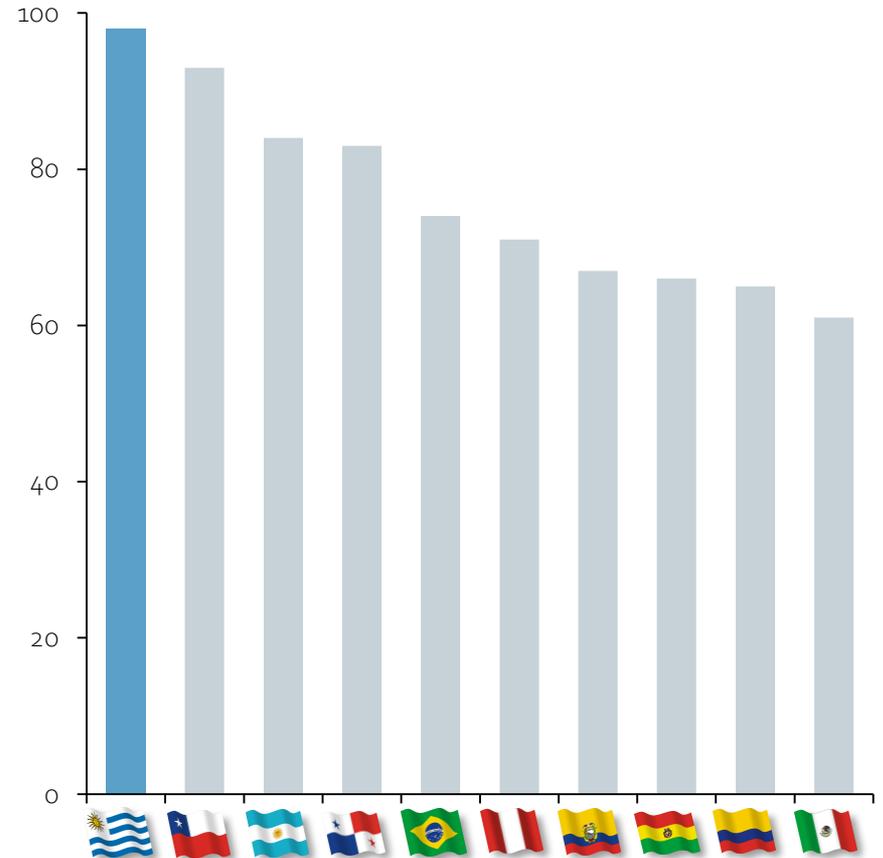


ウルグアイ: COVID-19: 症例数とワクチン接種 (1)
(2021年10月18日時点)



(*) 7日間の新規感染者の移動平均

世界自由度指数 (2)
(0~100点満点)



(1) 出典: Our World in Data. ウルグアイについては国家統計局の推計による総人口を使用。

(2) 出典: Freedom House - Freedom in the World Report (国は10の政治的な権利指標と15の市民的自由指標の各々のために0~4ポイントを付与される; 0の得点は最も少ない自由度を、4は最も大きな自由度を示す。

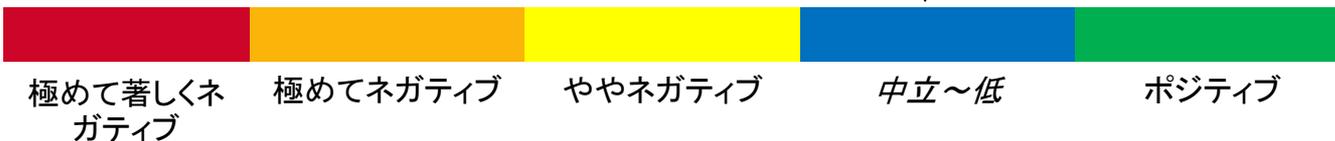
補足資料





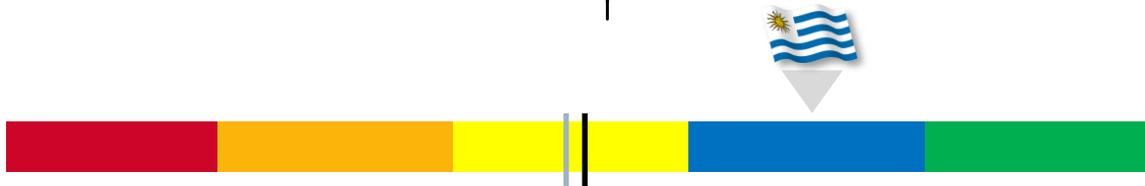
各格付機関がESG関連の問題に益々積極的に発言するようになってきている： ムーディーズの見解では、ウルグアイの信用力に対するESGの影響は中から低程度

クレジット 影響スコア

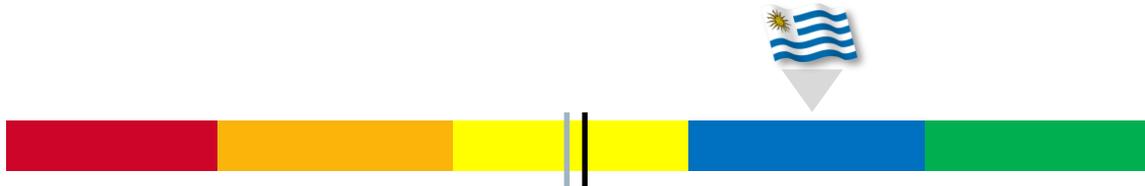


ウルグアイのESGの特徴は、現在の格付に与える影響が中～低程度であると全体的に考えられている。
すなわち、格付に対する影響は重大なものではない。

環境 中立～低



社会 中立～低



ガバナンス 中立～低



参照

Baa 平均

ラ米 平均

ウルグアイの格付けにおけるESG要素の重要性: フィッチの見解

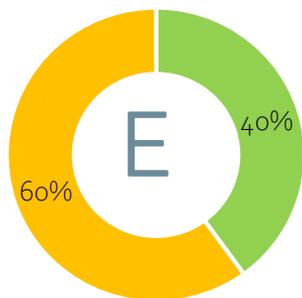


要素別グローバル関連性スコア

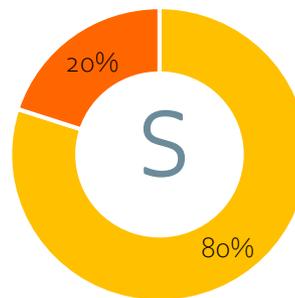
(全体に占める割合)



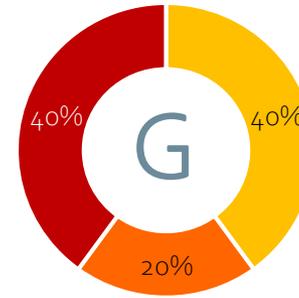
← 関連性が低い 関連性が高い →



GHG排出量/大気品質	2
エネルギー管理	3
水資源/管理	2
生物多様性/自然リソース管理	3
自然災害・気候変動	3



人権/政治的自由	4
人間開発、健康、教育	3
雇用・所得格差	3
公共の安全/セキュリティ	3
人口動態	3



政治的安定/権利	5
法の支配、制度・規制の質、汚職防止	5
国際関係・貿易	3
債権者の権利	4
データ品質/透明性	3



一步前進: フィッチは、2021年9月にSustainable Fitch ESG Ratingsを発表。これはESG パフォーマンスを企業、フレームワーク、手法の各レベルで評価する為の独自の分析フレームワークである。